

TAIWA SHAKYOU DAYORI

たいわ

社協だより



城内中区常盤会の皆さん



大和町ボランティア友の会の皆さん



100人のボランティア ひだまりの丘をきれいに

老人クラブ会員とボランティア友の会員が
ひだまりの丘除草作業を行いました

6月2日(木)城内中区老人クラブ「常盤会」と町内各地区「ボランティア友の会」の方々がそれぞれひだまりの丘の除草作業を行いました。常盤会は会員45名が集まり早朝に、また午前から昼にかけては友の会会員63名が鎌などを使いながら手作業で除草を行い、最後にほうきで丁寧に清掃しました。

今年は震災の影響で例年実施している日赤奉仕団の講習会や炊き出し訓練は行われず、また当日はあいにくの空模様でしたが、たくさんの方々に活動していただき、ひだまりの丘の植栽は見違えるほどきれいになりました。

CONTENTS

- P1 ● 100人のボランティア ひだまりの丘をきれいに
- P2~4 ● 平成22年度事業報告
/平成23年度事業計画
- P5 ● 社協・地域福祉関係記事
/ボランティアセンターコーナー
- P6~7 ● 東日本大震災特集記事
- P8 ● たいわ福祉情報掲示板
- P9 ● 地域へ発信！100文字いんふあ
- P10 ● ひだまりな人ズームアップ 他



平成22年度 事業報告

会の運営に関する事業

- * 理事会（3回） * 評議員会（3回）
- * 監事會（1回） * 企画財政部会（1回）

生活相談事業

- * 生活相談所の開設（月1回）
件数 35件
- * 弁護士相談会の開催（年2回）
件数 16件

子育て支援事業

- * 子育てサロン きらきら・ぽっぽこ 支援
毎月1回
 - ・子育てサロンきらきら（町民研修センター）
 - ・子育てサロンぽっぽこ（杜の丘会館）

地域福祉事業

- * 活き生きサロン支援
ゲーム・プロジェクト等の貸出し
レクリエーション講習会の開催
- * まほろば夏まつりへの参加
かき氷店
- * まるごと茶屋活用
お茶っこ飲み会（月1回）
手芸教室（月1回）
手話交流会（随時）
島田飴まつりへの協力

生活援護事業

- * 生活安定資金貸付 * 生活福祉資金貸付
- * 歳末たすけあい運動募金
- * 日常生活自立支援事業

青少年健全育成事業

- * キャップハンディ体験学習・福祉体験学習
宮床中学校・吉岡小学校・鶴巣小学校
落合小学校
- * 大和町児童生徒書初め大会支援
- * 母子父子家庭中学校卒業生記念品贈呈（45名）

障害者福祉事業

- * 精神障害者小規模作業所の運営
週4日 年間延べ利用者 1,236人
割り箸袋詰め作業・バザー出品用品の製作・
調理実習・生活訓練・配食サービス配達等
- * ふれあい交流会の開催
アトラクション 大和すずめ踊り愛好会
津軽三味線三弦三光会
(参加者200名)

高齢者生活支援事業

- * 在宅配食サービス（宅配昼食弁当）
対象：ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯
回数：週3回（月・水・金）
利用料：1回 300円
食数：年間延べ 143回 3,228食
- * ひとり暮らし高齢者日帰りお楽しみ会
場所：やくら薬師の湯（36名参加）

ボランティアセンター運営事業

- * 相談・登録・事業斡旋
ボランティア保険加入（480名）
- * ボランティア情報誌発行（年4回）
- * 講座開催
夏休み小学生福祉体験講座
手話初級講座 5回シリーズ
交流研修会、研修会への助成
- * 災害ボランティア関係
自主防災組織に関する研修会の開催
(70名参加)
- * 収集活動（プルタブ）
- * 運営事業推進協議会開催

福祉用具の貸出

- * 主な貸出用具
特殊寝台・床ずれ予防用具
車イス・歩行器

広報事業

- * 社協だより発行
(年4回 全戸配布) 33,700部発行
- * 広報編集委員会の開催（年4回）

関係機関への協力・連絡調整

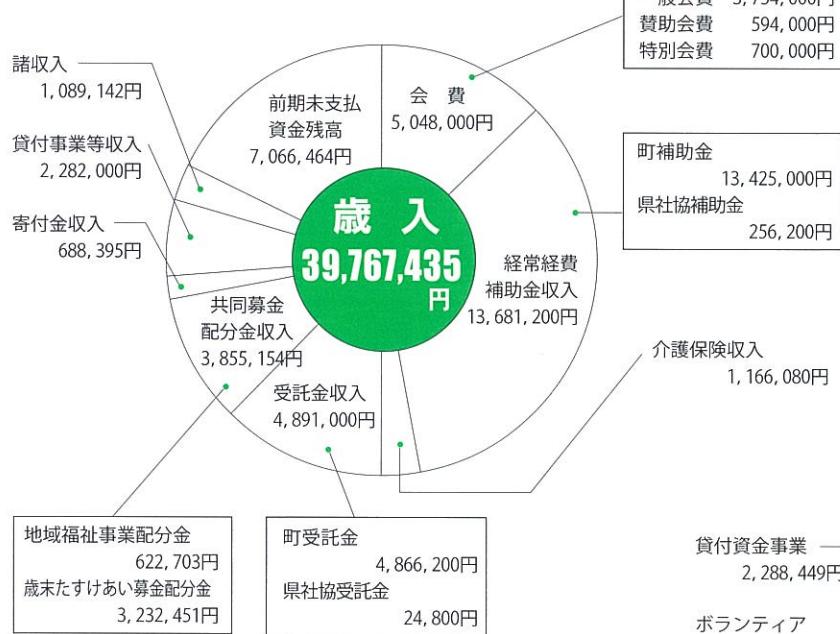
- * 行政との連携
- * 各種福祉団体への助成及び協力
- * 団体の事務局
(民生委員児童委員協議会・遺族会・ボランティア友の会・老人クラブ連合会)
- * 支援協力団体
(身体障害者福祉協会・手をつなぐ育成会
・母子福祉会・日赤奉仕団・保護司会・
更生保護女性会)

東日本大震災への対応

- * 災害時要援護者安否確認・食料・飲料の配達
- * 避難所運営支援
- * 災害対応ボランティアの調整
- * 緊急小口資金〔特例貸付〕の実施

平成22年度 会計決算

〔 決算総額 歳入 39,767,435円
歳出 32,659,703円 〕

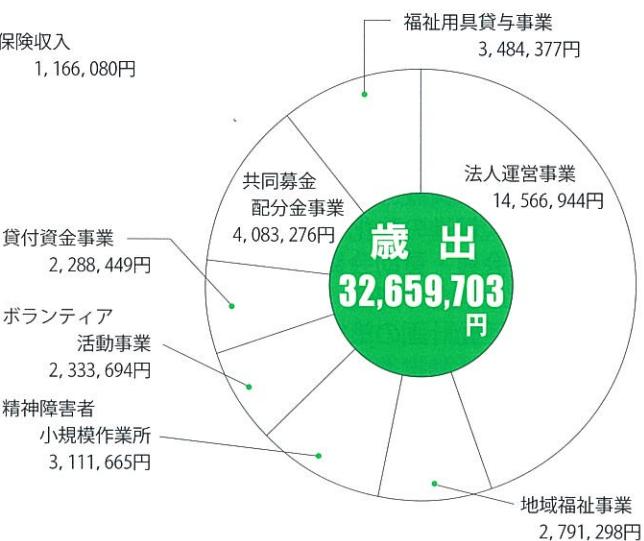


財産目録

平成23年3月31日現在

勘定科目	金額
I. 資産の部	
(1) 流動資産	
現金・預金	4,255,635
未収金	3,822,150
前払金	40,000
(2) 固定資産	
基本財産	1,000,000
その他の固定資産	19,872,040
資産合計	28,989,825
II. 負債の部	
未払金	1,007,611
預り金	2,442
退職給与引当金	8,154,672
負債合計	9,164,725
差引純資産	19,825,100

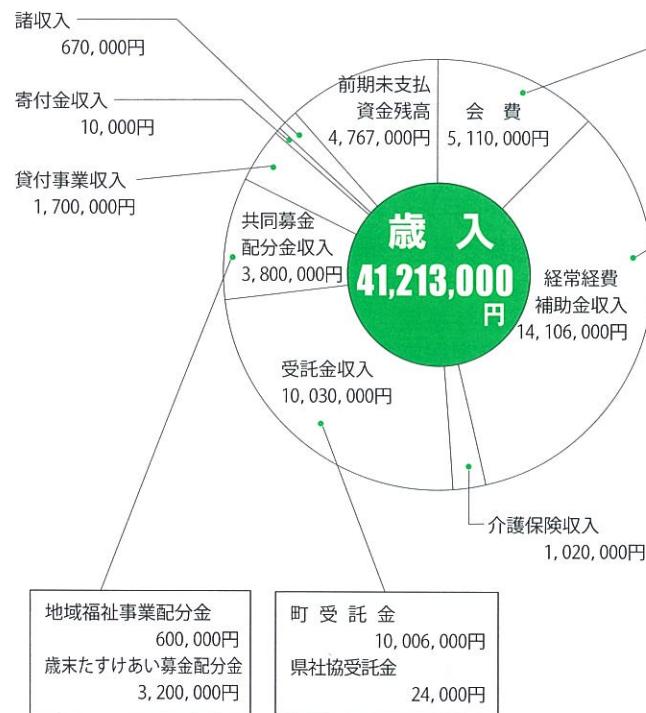
(単位：円)



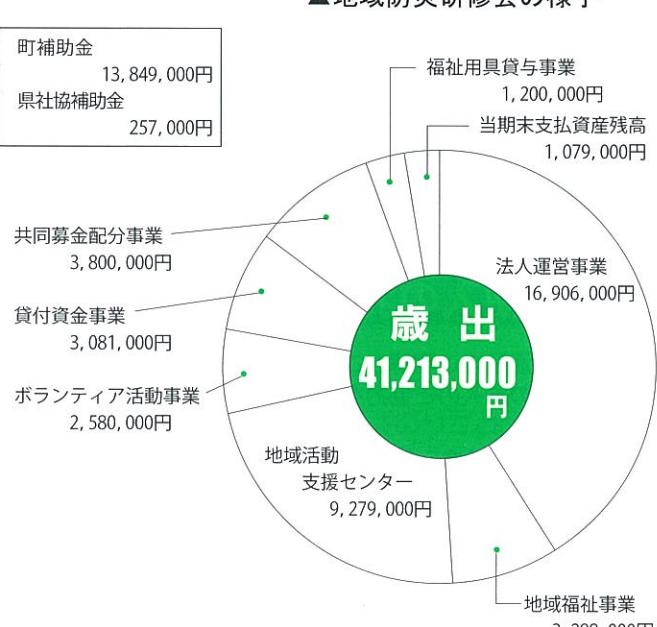
※平成23年5月24日の理事会・平成23年5月26日の評議員会において承認されております。

平成23年度 会計予算

〔 総予算額 41,213,000円 〕



▲地域防災研修会の様子



※平成23年3月29日の理事会・平成23年3月30日の評議員会において承認されております。

平成23年度 事業計画

重 点 目 標

誰もが住み慣れた地域の中で互いに支えあい安心して自分らしく生き生きと暮らせる地域社会を構築するため、「福祉のまちづくり」を推進し、積極的に各種事業を展開していきます。

- 1) 自主的な財源の確保
- 2) 相談事業の充実
- 3) 「災害ボランティアセンター」の体制整備
- 4) ボランティアの育成とボランティア団体との連携推進
- 5) 地域活動支援センターの適切な運営
- 6) 広報活動の充実
- 7) 「まるごと茶屋」のPRと各種事業への活用
- 8) 小地域福祉事業の充実と推進



▲ふれあい交流会の様子

●会の運営に関する事業

- * 理事会、評議員会、監事会の開催
- * 会員の加入促進の強化
(一般会員・賛助会員・特別会員)
- * 企画・財政部会の開催
- * 地域福祉活動計画の策定の取り組み

●ボランティア活動推進事業

- * ボランティアセンター運営事業推進
- * ボランティア友の会、ボランティアグループへの支援
- * ボランティアの育成及び研修会の開催

●日常生活自立支援事業

- * 対象者の需要把握、初期相談への対応支援に係る満足度の把握

●災害ボランティアセンターの体制整備に関する事業

- * 災害ボランティアセンターの体制整備
- * 災害ボランティアに関する講習・訓練への参加

●障害者福祉活動

- * 地域活動支援センターの運営(受託事業)
- * ふれあい交流会の開催

●地域福祉事業

- * 活き生きサロン支援
- * まるごと茶屋
- * まほろば夏まつり等への参加
- * 小地域見守り体制の支援
- * 成年後見制度に関する相談や受任等の体制整備

会費納入のお願い

本会の活動にご理解とご支援を賜り会費の納入のご協力をお願い申し上げます。

特別会費 10,000円／一口
賛助会費 2,000円／一口
一般会費 800円／一世帯

なお、各地区的区長さんを通して会費の納入をお願いしております。皆様からいただいた会費は、地域福祉事業の重要な財源として有効に活用させていただきます。



●高齢者生活支援事業

- * 在宅配食サービスの充実(週3回)
- *ひとり暮らし高齢者日帰りお楽しみ会
- *ひとり暮らし高齢者への非常持ち出し袋の配布

●子育て支援事業

- * 子育てサロンの支援
- * おもちゃ病院の支援

●青少年健全育成事業

- * 福祉体験学習
(キャップハンディ体験・福祉施設1日体験等)
- * 母子父子家庭中学校卒業生への記念品贈呈
(母子福祉会と共に)
- * 大和町児童・生徒書き初め大会支援

●生活援護事業

- * 生活安定資金貸付
- * 生活福祉資金貸付
- * 歳末たすけあい募金配分

●生活相談事業

- * 生活相談所の開設(月1回 第2木曜日)
- * 法律相談所の開設(年3回 6月・10月・2月)

●広報事業

- * 社協だより発行(年4回)
(ボランティアセンターコーナー含む)
- * 広報編集委員会の開催(年4回)
- * ホームページの運用

●福祉用具貸与事業

- 介護保険指定居宅サービス事業者
(事業所番号 0472700111)

●関係機関との連絡調整

- * 行政との連携
- * 各種福祉団体への助成及び協力
- * 団体の事務局
(民生委員児童委員協議会・遺族会・ボランティア友の会・老人クラブ連合会)
- * 支援・協力団体
(身体障害者福祉協会・手をつなぐ育成会・母子福祉会・日赤奉仕団・保護司会・更生保護女性会)

●東日本大震災への対応

交通安全呼びかけ隊



このたび娘のひばりとすみれと一緒に交通安全呼びかけ隊のお手伝いをすることになりました。

道路は右側通行、横断するときは右見て左見て、車が来たときはやり過ごしてからハイまた右見て左見て安全確認。急がずゆっくり渡りましょう。『自分の命は自分で守る』をモットーに交通安全・事故防止活動を皆さんと一緒に勉強したいと思います。

交通安全呼びかけ隊は交通安全啓発活動グループです。皆様のところに出向いて交通安全の大切さ、ポイントをお話しいたします。

■連絡先は…大和警察署交通課（TEL345-0101）まで

会報第56号

ボランティアセンターコーナー

仲間にエール

大和町ボランティア友の会 お見舞い訪問

大和町ボランティア友の会は、このたびの大地震で甚大な被害を受けたボランティアネットワーク会員と各社協を励ますため、町内5地区のボランティア友の会員から寄せられたお見舞金を持って6月7日（火）亘理郡・宮城郡計5町を訪問しました。

各災害ボランティアセンターや社協事務所にて友の会員の安否や被災状況、現在の様子などについてお話を伺いました。中でも七ヶ浜町ボランティア友の会長さんは、津波にのまれながらも九死に一生を得、現在は町民のために仮設住宅そばの集会所でお茶会ボランティアをしているそうです。被災地で頑張っているボランティアの姿に感動し、震災復興のお役に立ちたいと一行は決意を新たにしました。



▲七ヶ浜町災害ボランティアセンターにて

(社)シルバー人材センター設立から1年 総会が行われました

5月25日（水）まほろばホール大会議室にて平成23年度定時総会が行われました。五月晴れのさわやかな日和のもと大勢の会員参加で熱気あふれる中、慎重な審議や意見が出されました。全ての議案は原案通り可決され、また理事全員の再任も選考委員会案通り可決されました。会員は心新たに新年度、「自主・自立・協働・共助」の精神で就業先のお客様の為、丁寧な仕事に心がけることに努める決意を確認しました。



○入会希望の方 ○仕事の依頼の方

大和町シルバー人材センター（電話345-8850）で承ります。

（文責：大和町シルバー人材センター事務局）

大和町ボランティアセンター

TEL・FAX 022-345-2156

E-mail taiwa-shakyo1967

@poem.ocn.ne.jp

URL <http://www.taiwa-shakyo.or.jp>

地域でこんなボランティア ボランティアサークル紹介⑩ 愛の訪問配食 サービスボランティア「ひまわり班」



私たちは平成12年から第1水曜日の配食サービスを担当しているボランティアグループです。会員は現在運転ボランティアを含め17名で毎月楽しく活動しています。

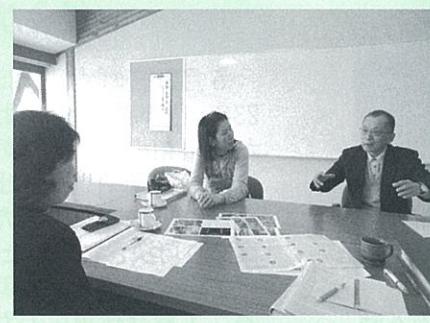
会員からは「みんなと会えて楽しい」、「お弁当を高齢者宅に持つて『ありがとう』と言われるのが嬉しい」、「元気をもらえる」、「作りがいがある」、「みんな仲良しで楽しい」、「チームワークが良い」、「料理の勉強になる」などの感想が聞かれました。

会員の感想から活動の醍醐味を伺うことができると思います。

3月11日を振り返る座談会

東北地方太平洋沖地震の発生から約2ヶ月が経過した5月19日(木)、広報編集会議のためにお集まりいたしました本紙編集委員さんと3月11日に発生した地震への対応について語り合つていただきました。

①宮床・荒井地区在住、区長であり民生委員の大場昭夫さん
②鶴巣・砂金沢地区在住、ボランティア友の会の小野啓子さん
③吉岡在住、福祉施設職員であり障害児の母である上田美香さん



いて良かったと思いました。



大場さん

(小野) 家の中でテレビを見ていきました。揺れを感じた瞬間、逃げ道確保のため戸を開け、ガスの元栓の確認とスイッチ類を切りました。あんなに強く強い地震は初めてでした。孫と母を屋外に誘導し、柿の木の下に避難しました。寒かったです。

(上田) 職場の七ツ森希望の家にいました。勤務時間が15時までなので帰る直前でした。施設内には泊まりの利用者さんがいたのでみんなの無事を確認してから帰宅しました。この日は障害を持つ息子の学校が休みで実家に預けていましたが、娘は学校だったので心配になりました。

地域のつながりが安心感に

さい

耐震補強は有効でした

地震発生時、どこで何をしていましたか?

(大場) 中学校の卒業式の日でした。帰宅後、一人で着替えをしていた時地震が発生しました。動けず、ただ机にすがりついてました。テレビが落下しましたが、耐震金具やベルトを付けていた家具は無事でした。家屋も無事で、耐震検査と補強工事を2年前にやってお

いて良かつたと思いました。
(小野) 家の中でもテレ



小野さん

私は避難している人に「体調はどうですか?」と声掛けをして相手をしたりしました。緊急時

被災地の障害者か心配
印象に残ったことは?

(大場) 連絡手段が無かつたことが印象に残っています。代替手段を検討しておき地域で共有してお

くことが必要だと思います。

それから最初の数日を乗り切つてもその後体調を崩される方もありました。見回り・見守りの大切さを実感しました。

地区の様々な組織や個人が力を合わせ難局を凌ぎ乗り越えることができましたが、地区の連帯と絆の賜物と感謝しております。

があり事例発表する予定だったのに気になつていましたが、連絡の取りようが無くどうにもなりませんでした。

翌日以降の食事のことが地域の共通の心配事でしたので、拠点である公民館に食材や機材、燃料などを持ち寄り、自主防災組織に、婦人防火クラブや生き生きサロンボランティアなどが力を合わせ豚汁、すいとん汁、カレーなど3時間で250食の炊き出しを行いました。動ける人は公民館で会食し、動けない人には宅配したのですが、涙ながらに受け取る方もいて大変喜ばれました。延べ53名の地域住民がボランティア活動をしていました。動けない人は宅配したのですが、涙ながらに受け取る方もいて大変喜ばれました。希望の家は、元々、福祉避難所としての機能があり、町内グループホーム等の入所者63名を震災直後から受け入れをしていました。そんな大変な時に休ませていただき、とても感謝しています。



上田さん

(上田) 私は職場から実家に帰り、娘と甥、姪を学校に迎えに行つた矢先に、町のボランティアセンターからお声がけいただき、松島町と塩釜市での炊き出しに参加させてもらいました。被災者にすこぶる喜んでもらえたことが本当に良かったです。被災地では個人で急連絡をしたりと慌しく動いていましたが、災害の時こそ落ち着いて行動するよう心掛けていました。その後、母親が転倒し両手首を骨折してしまったため、私は家族にかかりきりになり、仕事は休みをいただきました。希望の家は、元々、福祉避難所としての機能があり、町内グループホーム等の入所者63名を震災直後から受け入れをしていました。そんな大変な時に休ませていただき、とても感謝しています。

(上田) 障害を持つ息子がパニックにならなかつたことが救いでした。でも停電のときに「早く電気を点けて」と言われ納得させられるのに苦労しました。私は障害児の親グループの「にこにこきつず」で活動し、まとめる立場にいるのでメンバーのことを探して回りました。まだ県内のお母さん友達も連絡が取れず安否が心配だったのですが、報道でも障害児の家族や障害者がどこでどうしているといふニュースはなかなかなく、発信もできず歯がゆい気持ちでした。今もなお被災地に住んでいた障害者やその家族が今どのような生活をしているのか心配ですね。

あの日、それぞれにさまざまエピソードがありました。

思い出すことがつらい方もいるかもしませんが、目を逸らさず共有することで風化させることなく教訓を得ることができます。機会があれば3・11を振り返り、地域全体で必要な「備え」を再確認していただければと思います。

町内での片付けボランティア



黒川高校生徒会
坂井直子さん（16歳）
今野拓磨さん（16歳）
武山啓太さん（16歳）

今野さん（左）と坂井さん（右）にお話を伺いました。

地震が発生したとき、生徒会メンバーで仙台にいて帰宅難民になりました。通りがかったホテルのロビーで食料を提供してくれ一夜を明かすことができました。そんな体験から僕らでできることをして人の力になればと考え、メールで仲間を集めてボランティア登録をしました。

活動は町内の一人暮らしのおばあちゃんの家のガレキの撤去で、結構しんどい作業でした。でもおばあちゃん一人ではできないことだと思ったのでやって良かったと思いました。その後黒川高校の生徒有志と教員で被災した石巻の高校の清掃や片付けのボランティア活動にも行きました。

僕らがいつも通りの生活を取り戻していたとき、石巻の方々はまだ頑張っていました。何もせずにこのままでいいのかなど。自分ひとりの力は小さいけれど、ポジティブに、できないことよりできることを探そうと思います。

炊き出しボランティア



大和町役場職員
浅野有実子さん

役場の職員親睦会で被災地への炊き出しボランティア活動をしました。私は役場職員とボランティアさんと一緒に南三陸町と多賀城市に行き、鶏団子のつみれ入りのまいだけ汁をそれぞれで約500食提供しました。

南三陸町は本当に何もなくなっていてショックを受けました。でも被災者の方々は私たちが準備した炊き出しに心から感謝をしてくれ、片付けも自然に手伝ってくれました。その気持ちがとても嬉しく思いました。多賀城市では「大和町さんありがとうございます！」とわざわざ声を掛けてくれる人もいました。

「惨事ストレス」について

被災地から帰ると、興奮状態が続いたり、体験や現場が思い出されたり、不眠や頭痛など身体の不調が現れたりすることがあります。そういう反応を「惨事ストレス」と呼びます。これは被災地で活動された方々に現れやすく、異常な状況の中で起こる自然な反応です。

軽減するためには、休養や落ち着く環境、仲間との活動の振り返りなどが効果的です。普通、ストレスは時間とともに消えていきますが、その状態が長く続き日常生活に支障をきたす場合は医師やカウンセラーへの相談などが必要です。

大和町発！災害ボランティア活動

全国から被災地にボランティアが駆け付けています。大和町のボランティアさんも町内外で様々な活動を展開しています。その一部をご紹介します。

避難所ボランティア

浜尾みね子さん



すごい災害だったので、何かできることをと思っていました。震災数日後、まほろばホールの図書館に行ったら散乱した本の片付けをしていたので、とにかく拾って並べるだけだったのですがお手伝いをしました。その後、ボランティアセンターにお電話したところ、デイサービスセンターに避難している高齢者のお話し相手ボランティアに来て欲しいと言われボランティア活動をさせていただきました。

災害は無いのが一番。でも来ないという保証は無いしね。どこでボランティアが足りないのか、お手伝いが必要なのかがなかなかわからなかつたので、例えば福祉施設や学校、病院などで緊急時に駆け付ける登録ボランティアがいると良いのではないかと感じました。

動物愛護センター(富谷町)でのボランティア

佐々木奈津子さんとそのご家族

地震が発生したとき、もう子犬との面会のため動物愛護センターにいました。余震が落ち着くまでセンターでお世話になり無事自宅に帰ることができました。

4月になりお礼のため再訪した際、被災動物のお世話をするボランティアが足りないことを聞き、私たち家族もお手伝いすることにしました。週に何回か行き、餌やり、水交換、犬2～3頭の散歩など2時間くらいのボランティア活動をしました。被災動物が早く家族のもとに帰れたらしいなと思います。



まだ“ボランティア”が必要です

ボランティアは自発的な意志に基づいて人や社会に貢献する活動です。あなたの“何かをしたい気持ち”を行動に移してみませんか。

県内の災害ボランティアセンターの活動状況は次のウェブサイトでご確認ください。

◆宮城県災害ボランティアセンター

<http://msv3151.c-bosai.jp/>

本会では被災地でのボランティア活動を希望する方に情報提供をしています。ボランティア保険の窓口でもありますので合わせてご利用ください。

たいわ福祉情報掲示板

①日時 ②場所 ③金額 ④対象 ⑤内容 ⑥申込
問 問い合わせ ⑦持ち物 連 連絡先 ⑨TEL になります。

講座・案内

夏休み小学生福祉体験講座

(手話体験) のお知らせ

☎345-2156 大和町ボランティアセンター

手話を学ぶことにより障害のある方を身近にとらえ、障害に対する理解と関心を深めていただく小学生向けの講座を開催いたします。

④ 7月28日(木)10:00~12:00

ひだまりの丘 小学3年生~6年生 ¥無料

募集

まほろば夏まつり

ボランティアスタッフ募集

☎345-1184 まほろばまつり実行委員会(産業振興課)

20歳以上の町内在住・在勤者(個人・団体問わず) フステージ準備、清掃、各種催し物の運営補助など

さわり織りボランティアさん募集!

☎345-2156 大和町地域活動支援センター

工房ななつもり

大和町地域活動支援センター工房ななつもりでは、さわり織りの作品作りを手伝っていただけるボランティアさんを募集しています。作業内容は利用者が織ったさわり布をバッグや小物などの製品に仕上げる作業です。さわり織りに興味があり手芸の好きな方、ぜひ一緒に活動しませんか。

④応相談 ひだまりの丘2階 工房ななつもり

イベント

子育てサロン開催のお知らせ

◆子育てサロンきらきら

④ 7月8日(金)、8月12日(金)、9月9日(金) 10:00~12:00

※大和町町民研修センターに戻りました 子育て支援ボランティアグループ・きらきら

代表・佐々木 342-2444

◆子育てサロンぽっぽこ

④ 7月21日(木)、8月18日(木)、9月15日(木) 10:00~12:00

杜の丘会館 子育てサロンぽっぽこ 代表・市川 348-6595

◆両サロン共通事項 0歳~未就学の子どもとその親、祖父母など

¥無料(お子さんに必要な飲み物・おやつなどはご持参ください)

おもちゃびょういん

ひまわり開院のお知らせ

☎090-8616-2636 おもちゃ病院ひまわり院長 勝又 壊れたおもちゃをお持ち込みください。お子さんからお話しを伺いながらおもちゃドクターがその場で修理いたします。

④ 8月21日(日) 10:00~12:00

大和町町民研修センター

ひなたぼっこ会開催のお知らせ

☎345-2156 大和町ボランティアセンター

どなたでもご参加いただけるお茶飲み会です。

④ 7月21日(木) ひだまりの丘
8月18日(木) まるごと茶屋
9月15日(木) ひだまりの丘
10:00~ ¥会費100円、申込不要

生活相談所開設日のお知らせ

☎345-2156 大和町社会福祉協議会

日常生活の困り事、心配事はありませんか? 相談員が親身になってご相談に応じます。

④ 7月14日(木)、8月11日(木)、9月8日(木) 10:00~15:00
吉岡コミュニティセンター ¥無料

まほろば夏まつり

☎345-1119 大和町産業振興課

8月7日(日) まほろばホールを会場にまほろば夏まつりが開催されます。今年は震災の影響で1日のみの開催ですが、「水森かおり歌謡ショー」やまほろば夢花火など様々な催しが企画されます。

お知らせ

社協では今年も出店を計画してい

ますが、現在調整中です。会場内にて見つけましたらどうぞお立ち寄りください。

あさいな夏祭り

☎347-8080 あさいな学園

恒例のあさいな夏祭りを実施します。④ 7月31日(日) 18:00~

あさいな学園駐車場

フステージ(歌や踊り)、花火、出店(焼き鳥、お餅、とすけなど)

街喫茶さおり万葉の森展

☎347-0028 NPO黒川こころの応援団

大衡村ふるさと美術館(昭和万葉の森内)

④ 8月10日~28日 10:00~16:00

¥入場料:一般¥200、高・大学生¥150、小・中学生¥100
(半券は街の喫茶店にて換金します)

助成金情報

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業

東日本大震災で活動するボランティアさんなどを支える助成金です。

◆助成対象

東日本大震災で被災された方々を支援する①緊急支援活動②生活支援活動③復興支援活動・コミュニティづくり活動などが対象になります。終了した事業もさかのぼって応募ができます。5人以上のボランティアグループからNPO、社会福祉法人などの団体まで対象になります。

◆助成金額

上限は①短期:1週間以内10万円まで、1ヶ月未満50万円まで②中長期:1ヶ月以上300万円まで。

◆受付期間

締切 7月31日(日)(第3次応募期間)
※第4次以降は2ヶ月に1回程度の間隔で応募受付・助成が行われます。

◆申込・問合

社会福祉法人中央共同募金会企画広報部
電話 03-3581-3846 FAX 03-3581-5755
E-mail support@c.akaihane.or.jp
URL http://akaihane.or.jp

新施設紹介 なごみなの里地域福祉サービスセンター

●特別養護老人ホーム 和風園

T E L 346-2229 F A X 346-2305
小野字前沢1

●養護老人ホーム 偕楽園

T E L 346-2221 F A X 346-2222
小野字前沢31-1

●地域支援センター なごみな

※現在は和風園、偕楽園内に併設

6月1日に発足した「なごみなの里地域福祉サービスセンター」は、特別養護老人ホーム和風園、養護老人ホーム偕楽園、地域支援センターなごみなを一体的な体制にしたもので、宮城県

社会福祉協議会が運営しています。「なごみな」の命名の由来は、和風園の和(なごむ)と偕楽園の偕(みな)の文字を組み合わせ、やわらかなイメージを意識してひらがなで表現しました。

この度新設した地域支援センターなごみなは、①通所介護事業所「やわらぎ」、②居宅支援事業所「なごみな」、③共同生活介護・共同生活援助事業所「富ヶ丘ホーム」など、和風園・偕楽園で日々行っていた在宅サービスを組織上独立させ、より地域に密着した支援が行えるようにしました。今後共よろしくお願い致します。



地域へ発信!

100文字 いんふあ

NPO法人 黒川こころの応援団

TEL/FAX 347-0028 吉岡字館下47

生き辛さを持っている人の自由な芸術表現力には、いつも驚かされます。普通に社会生活が「できてしまう」人には「できない」表現が、たやすくできてしまう。「街喫茶さり万葉の森展」を8月に開催します。

大和町社協事務局＆ボランティアセンター

TEL/FAX 345-2156 吉岡字館下88 ひだまりの丘 内

震災対応業務が続いています。超長期戦ですので皆様の息の長いご支援をお願いいたします。そんな中ですが、小学生向け講座や夏祭りなど通常のイベントも企画中！いつも通りに学び・楽しむことも大事ですよね。どうぞお楽しみに♪

大和町地域活動支援センター 工房ななつもり

TEL/FAX 345-2156 吉岡字館下88 ひだまりの丘 内

4月からスタートした当支援センターも早くも3ヶ月も経過し、部屋も広くなってか作業はスピードアップ！！4月はお花見、しおり作り、毎月の調理実習もみんな張り切って満足気です。「楽しく明るく元気に」をモットーに通所しています。

大和町地域包括支援センター

TEL 345-7241 FAX 345-7240 吉岡字西桧木1-1

いつまでも元気で生活するために、65才以上の方を対象に、介護予防事業（生き生きサロン介護予防講座、貯金友の会）を実施していますので、積極的にご参加ください。貯金友の会は毎月第3水曜日に開催しています。

地域支援センター ぱれっと

TEL 344-3596 FAX 344-3595 吉岡字南金谷下8-7

東日本大震災のためグループホーム、ケアホームの皆さんは集合して希望の家で避難生活を送りました。3月11日の夜に全員の無事が確認できた時は安心しました。3月末には全ホームに皆さんに戻ることができ、笑顔で元気に過ごしております。

知的障害者入所更生施設 あさいな学園

TEL 347-8080 FAX 346-2120 宮床字摺萩24-4

3月11日の震災で被害にあわれた方々に、心よりお見舞い申し上げます。あさいな学園では、7月31日（日）18時から夏祭りを開催いたします。今年もたくさんの出店や大花火の打ち上げもありますので、皆さん是非お越しください。

養護老人ホーム 偕楽園

TEL 346-2221 FAX 346-2222 小野字前沢31-1

震災後少しづつ日常生活に戻り、行事なども再開しました。先日は保育園児との交流会がありました。さつまいもの苗と一緒に植えました。子供達の笑顔にパワーをもらい楽しい一時を過ごしました。秋の収穫が楽しみです。

NPO法人 ふれあい

TEL 346-5008 FAX 346-5044 宮床字下小路46-1

大震災後、皆様ひとり一人の生活はどこかまだ不安があるかのように感じられます。今日一日満足のいく活動をしようを合言葉に頑張っています。先日はとておきの音楽祭に60名で参加し、最後に「Y・M・C・A」を歌い全員で盛り上がってきました。

特別養護老人ホーム 和風園

TEL 346-2229 FAX 346-2305 小野字前沢1

地域住民の皆様に質の高い福祉サービスを提供するため、和風園・偕楽園・地域支援センターの3施設を総合的に運営するセンターが6月1日に発足しました。なごみなの里地域福祉サービスセンター「和風園」を今後とも宜しくお願ひします。

介護老人保健施設 希望の杜

TEL 344-3232 FAX 344-3231 吉田字新要害10番地

震災での建物の被害は徐々に復旧しております。新生「希望の杜」のスタートです。危機的状況下でも負けない強い気持ちをもった職員が、いつでも笑顔でお待ちしております。見せましょう、希望の杜の底力を！

在宅心身障害者保養施設 宮城県七ツ森希望の家

TEL/FAX 345-3701 吉田字上童子沢21

当所では送迎用のバスが新型車に更新されました。白色ボデーが眩しい乗り心地抜群の最新鋭の中型バスで、利用されるお客様方の送迎に大活躍です。今年も希望の家オリジナルの各種イベントで皆様のお越しをお待ちしております。

障害者支援施設 宮城県船形コロニー(かまくら園)

TEL 345-4856 FAX 344-0951 吉田字上童子沢21

自閉症等の行動に障害がある利用者が多く生活している施設です。震災から3ヶ月がすぎてようやく震災前の生活に戻りました。利用者の安心と安全を第一に新しい法律での日中活動の充実した施設運営に取り組んでいきます。

鶴巣桜の家

TEL 347-7181 FAX 343-2272 鶴巣下草字観音堂68-1

鶴巣桜の家では、デイサービスとショートステイ、自主事業の宿泊サービスを行っております。宿泊サービスとは、介護認定を受けていない方でも、見守り付の旅館に泊まれるような感じです。詳しくは是非ご相談下さい。

「**焼き出しボランティアで地域の絆**」

吉岡志田町炊き出し支援ボランティアの皆さん



志田町地区の皆さん方が5月26日(木)、奥松島(東松島市)で炊き出し活動を行いました。地域が一体となつて支援に取り組んだ様子を志田町の皆さん(児玉区長夫妻、加藤民生委員夫妻、千坂さん)に伺いました。

配していた天気は見事に晴れ、総勢27名が地域内で確保したマイクロバスなど4台に分乗し奥松島へ向けて出発しました。奥松島ではいまだ避難所で暮らす方が多くいらっしゃり、電気はやつと通つたものの断水が続いている状況でした。一行は目的地である奥松島縄文村に着くとすぐ夕飯の炊き出しの準備に取り掛かりました。現役の料理人たちが大鍋3つにフライヤー、焼鳥焼き器を所狭しと並べ、

食材の調達や調理は四川チ
ヤイナ、供味、高富、富永精
肉店などの飲食店や商店が担
い、ガスは三浦商店、車は志
賀野自動車など、地域の商店
主がそれぞれの強みを生かし
て活動に参加します。調理や
配膳のアシスタンントとして地
域の婦人防火クラブのメンバ
ーなども加わり、支援の輪が
どんどん広がっていきました

況でこれは大変だと。それで今度焼き出しに来るから何食必要かと避難所で尋ねたうらり〇〇食と言われ、「これはもつと大変なことになつたぞと」。その日から区長の児玉さんや民生委員の加藤さんなどが中心となり志田町を挙げての焼き出しプロジェクトが始まりました。

混ぜられるか心配なほどの大量の食材をどんどん調理していき、女性陣が手際よく配膳します。出来上がったのは500人前の中華飯と卵スープ1200本の焼き鳥、1200個のコロッケです。「やっぱり調理のプロは違うんだ」と区長の児玉さんは感心します。行列を作つて楽しみに待っていた被災者は出来たてを手に日々に感謝の言葉を述べていったそうです。中には「今度はいつ来るのっしゃ?」と尋ねる方もいらつしゃったとか。震災から2ヶ月半が経過し、志田町の看板も背負つていることから下手なものは出せないというフレッシュシャーがあつたのですが、被災者に喜んでもらえたことでほつと一安心したそうです。

員の加藤さん。奥松島は志田町の人たちにとつて実は馴染み深い思い出の地であり、この日地元で“留守番”だった志田町の方の中にも本当は現地に行きたかったという方もいらっしゃったそうです。

この炊き出しの計画は話が持ち上がりつづからわずか2週間で実行に移すことができました。それは、現地に行つた人も行けなかつた人も、地域の方々が趣旨に賛同して力を惜しまず協力してくれたことによつて成し遂げることができたとインタビューオの際皆さんはおっしゃつていまつた。被災者を支援することを通して結果的に「自分たちの地域の絆が強まつた」という言葉がとても印象的でした。

あたたかい善意
ありがとうございます

（福）宮城県社会福祉協議会	様	カラオケサークル「ドレミの会」	様
金	一〇〇、〇〇〇四	金	五四、四三四四田
吉岡地区老人クラブ連合会	様	金	一、九〇〇田
匿	早坂 好枝 様	金	一〇、〇〇〇四
匿	名 様	金	三、五〇〇四
匿	名 様	金	一、五〇〇四
匿	名 様	金	一、五〇〇四

編集後記

広報紙作りはお弁当作りと似ています。新鮮な地元の食材にこだわり、味は濃すぎず薄すぎず。主食とおかず、苦手な野菜やデザートも、食べ人を思い浮かべながらボリュームを考え、彩りに工夫を凝らしながら詰めていきます。さて、今号の満足度はいかがでしょうか？「おいしかったよ！（おもしろかったよ！）」と言つてもらえる広報紙をこれからも目指してまいります。